

真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合（岡山県真庭市）

R3補正
R4当初

41

背景・課題

真庭市では平成26年から市内（一部）の生ごみやし尿を利用したメタン発酵によるバイオガス利用と、メタン発酵消化液肥（以下、「バイオ液肥」という。）を利用した水稻栽培等のモデル実証に継続して取り組んでいる。これまでの取組で、バイオ液肥の利用が一定の時期に集中することや、肥料成分濃度が低く（窒素濃度で0.3%程度）単位面積当たりの散布量が膨大で作業効率の改善が必要であった。

成果目標と達成状況

- 目標年度：令和6年度
- 濃縮液肥の利用農家数：30戸以上（令和4年度実績：3戸）
- 新プラントで製造されるメタン発酵消化液肥の利用率：100%（令和4年度実績：0%）
 - ・市は市内全域のバイオマス（生ごみ、し尿、浄化槽汚泥）を資源化する新プラントの建設を進めており、製造されるバイオ液肥（年間約8,000t）の濃縮施設を令和6年度に整備予定。
 - ・濃縮液肥に対する地域内の理解醸成を図るため、既存のバイオ液肥から濃縮液肥サンプルをつくり、肥効分析や栽培実証等に取り組んだ。

取組の内容

- 濃縮液肥の肥料成分・重金属含有試験の実施

肥料成分は、全窒素で濃縮前のバイオ液肥と比べ5倍程度含まれることが分かった。また、有害な成分はほとんど検出されず全て基準値以下で、安全性に問題がないことを確認した。
- レタスにおける栽培実証

濃縮液肥散布ほ場では、生育状況は特に問題もなく、品質・収量ともに慣行栽培と同等のものが収穫できることを確認。納入先の反応も良好であった。



○回収する資源（分別した生ごみ）（左）と、既存のメタン発酵プラント



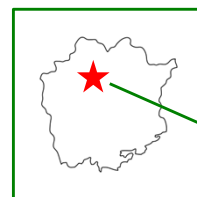
○真庭液肥研究会による濃縮液肥研修会の模様(左)と、レタスでの栽培比較（手前が濃縮液肥栽培、奥側は慣行栽培）

普及に向けた取組

- 普及啓発資料を活用し、濃縮液肥の利用に関心を寄せる農業者に広くPRを実施。
- 令和5年度に、ネギにおける栽培実証に取り組み、更なる利用拡大方法を探る。

問い合わせ先

真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合 TEL：0867-45-7773



真庭市

構成員

真庭液肥研究会、真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合、専門家、真庭市環境課、真庭市農業振興課、JA晴れの国岡山、真庭農業普及指導センター、真庭市内の液肥利用協力農家

品目